

申緑が丘

自主
健康
友愛



←学校HP
はこちら

まなびフェスト結果について

A：あてはまる B：あてはまるほうだ C：あまりあてはまらない D：あてはまらない
各項目において、肯定的回答（A+B）の割合が80%以上になることを目指しています。

【自主】自ら考え、進んで学習する生徒

目指す生徒の姿／学校の取組／家庭の協力	回答者	肯定的回答(%) ()は中間結果
自ら学ぼうとする わかりやすい授業、学ぶ意欲を育む授業 夢・進路・学ぶ意欲を育む言葉がけ	生徒 教員 保護者	91 (87) 90 (80) 78 (77)
自分の考えを深めたり、広げたりする 調べ学習、対話的な学びの場、読書指導の充実 子供との対話、よい本に触れる機会	生徒 教員 保護者	91 (92) 90 (80) 57 (59)
学習状況を把握し、自ら改善する 授業の振り返り、授業と連動した家庭学習 学習に集中できる環境整備	生徒 教員 保護者	86 (84) 90 (60) 64 (72)

取組成果・今後に向けて

- ・【自ら取り組む学習】中間結果では低い評価となった教員の「授業の振り返り」「家庭学習」への取組に改善がみられます。振り返りにより自らの課題をとらえ、自分に合った学習内容や方法を決めて実行する生徒が増加傾向にあります。次年度はICT機器を効果的に活用しながら個別最適な学びを推進してまいります。
- ・【学ぶ意味・進路指導】ご家庭から「将来のことを考えたり、学ぶ意味を伝えたりする機会があるとよい。」との意見をいただきました。職場体験学習や進路学習の内容を系統的に整理し、日常の授業や家庭学習と関連を図りながら、主体的に学ぶ意欲を育ててまいります。

【健康】たくましい心身をもち、実践力のある生徒

目指す生徒の姿／学校の取組／家庭の協力	回答者	肯定的回答(%) ()は中間結果
生活リズムが整っている 学習・睡眠・メディア時間を自らが決め評価する場 規則正しい食事・睡眠・メディア時間、ルール作り	生徒 教員 保護者	87 (86) 90 (100) 62 (64)
安全感覚を備えている 防災学習・交通安全・犯罪に巻き込まれない指導 通学路の危険箇所・緊急避難先の確認	生徒 教員 保護者	95 (99) 90 (100) 77 (78)
心身が健康である やりがいある活動・心のケア・SOSの出し方 子供の表情・変化の観察、通院・早期治療	生徒 教員 保護者	96 (89) 80 (100) 95 (90)

取組成果・今後に向けて

- ・【**生活リズム・情報メディア機器の使用**】学校では帰りの会などに、帰宅してからの時間の使い方（学習時間、メディア使用時間、就寝時刻等）を自ら決める場を設けタイムマネジメントの力を身に付けさせたいと取り組みを行ってきました。一部の改善が見られた生徒はおりますが、依然としてメディア使用時間（特にゲーム時間）が長く、生活リズムを乱す生徒が目立ちます。このことについては、本人、学校及び家庭が一体となって取り組みを行っていく必要があると考えます。
- ・【**SNS等の使い方**】SNS等のトラブルが表出する場面は少なくなりましたが、見えないところでの不適切な使い方は依然としてあり、指導に苦慮するケースがあります。これらの中には法に触れる恐れのあるものもあります。これは喫緊の課題として、生徒への指導や保護者への啓蒙を行ってまいります。
- ・【**心身の健康**】この項目については、生徒や保護者の評価が高まっています。各家庭において、お子様の小さな変化に気付き、適切な対応を行っていただいていることがうかがえます。引き続き、学校と家庭の連携を図りながら生徒の健康を推進してまいります。

【友愛】郷土を愛し、心豊かな生徒

目指す生徒の姿／学校の取組／家庭の協力	回答者	肯定的回答(%) ()は中間結果
良好な対人関係をつくる 多様性を尊重する集団づくり、教育相談の充実 あいさつの励行、会話	生徒 教員 保護者	95 (96) 100 (82) 99 (94)
自分のよさがわかる 生徒一人一人の活躍の場、よさや成長を認める声かけ 子供の成長やよさ、感謝の言葉、家庭での役割	生徒 教員 保護者	82 (79) 100 (100) 89 (83)
郷土や人の役に立ちたいと思う 郷土学習、地域との関わり、ボランティア活動 親子での地域行事・活動への参加	生徒 教員 保護者	96 (93) 90 (100) 64 (67)

取組成果・今後に向けて

- ・【**自己肯定感**】「自分のよさがわかる」については、本校のみならず県全体の課題とされてきたものですが、年々評価は高まっています。できていないことばかりに目を向けるのではなく、よさや小さな成長を認め、生徒たちが失敗を恐れず様々なチャレンジを行っていけるよう、教師の肯定的な関わりや、生徒同士の認め合いの場を多く設けてまいります。また、各家庭においても、引き続き、お子様のよさを理解し、伝えていってほしいと思います。
- ・【**あいさつの励行**】家庭でのあいさつの励行が高い評価となっています。学校内でも、明るく爽やかなあいさつが交わされることが多く、とても気持ちが良いです。課題として「相手や場面によって、あいさつができないことがある」との反省が上げられています。生徒会では「あいさつや返事」を頑張ろうという取り組みが行われています。生徒の主体性を尊重しながら、どの生徒も場に合ったあいさつができるよう指導してまいります。

第3回学校運営協議会での意見（2月22日（木））

- ・「郷土や人の役に立ちたいと思う生徒」について、岩中太鼓やボランティア活動など、地域の方々に褒められる機会をつくるのが大切である。
- ・「生活リズムが整っている」について、教育振興運動でも長らく取り組んできたが、学習や社会に出て働くにしても、結局のところ、生活リズムがしっかりしていることが全てである。
- ・「郷土学習」について、効果的に地域の資源や人材を活用しながら環境教育の充実を図り、SDGsの視点で考えさせていくことも有意義である。
- ・「復興教育・防災学習」について、これに委員として積極的に関わっていきたい思いがある。ぜひ検討してほしい。